１学期始業式　式辞

おはようございます。最初に皆さんにお知らせします。２、３年生にはすでにお話ししましたが、改めて。年間行事予定で今年９月第２週を牧南祭の週間としました。その木曜日、金曜日、土曜日を文化祭とし、土曜日には外部から中学３年生に学校見学に来てもらう日とします。毎年文化祭でクラス、部活、有志の発表で工夫を凝らし、質の高い発表をしてくれています。今年も期待していますが、今年度からは内輪だけでなく、外から観客をお迎えします。ぜひ、それぞれの企画において、一層盛り上げ、楽しめるように、生徒の皆さんの力を結集して取り組んでください。なお、翌週の月曜日を土曜日の代休とします。

学校祭だけでなく、これからますます生徒の皆さんが自ら主体的に取り組み、友達と話し合い考えを共有して、何かを成していく機会が出てきます。話題となっている校則の検討もその一つですね。皆さん一人一人の考えや行動が、これからの牧南の校風を築き上げていくわけです。学校生活の様々な場面で、ぜひ積極的な関わりを果たしてください。

さて、昨日の入学式では新入生にこう話しました。「かけがえのない３年間は誰のものでもない、みなさん一人一人のものです。ですから何事も決して人任せにすることなく、取り組むべき事柄につ

いては、粘り強く最後まで貫徹しましょう。」これは新入生だけでなく、皆さん全員に当てはまることです。粘り強く最後まで貫徹する。今日はこの「貫徹」について話をします。

縄文時代の遺跡から出土した装飾用の宝玉の中に、ひもを通す穴が開いたものがあるのを知っていますか。材料となる宝石は、現在の新潟県糸魚川市付近で産出した翡翠が貴重とされました。この翡翠の原石を丁寧に磨き上げた上に、穴をあけるのですが、縄文人はまだ青銅器や鉄器を知りません。獣や魚の骨を錐のようにとがらせ、その先端に固い砂をまぶして石の上からひたすらほじっていくのです。頼るのは人力のみ。子供の握りこぶし大の原石に来る日も来る日も骨の錐を当て、倦まずたゆまずほじり続け、穴を少しずつ大きく、深くしていきます。そしておそらくは数週間あるいは一月以上かけて、とうとう穴は石の裏側まで達し、穴の中から光が見える瞬間が来ます。きっとすごい感動を覚えたことでしょう。これが「貫徹」のイメージです。最後に穴がひもを通すことができるまでの大きさに広げられ、完成です。

それにしてももともと遠方から運ばれた希少な宝石に、どうしてわざわざ長い時をかけて穴を開けるのでしょうか。縄文人の美意識は現代人からは計り知れませんが、この穴あき宝玉にひもを通し首からかけた者は、それを所有するにふさわしい権威者、例えば王族

であったことは他の出土品からも想像がつきます。とするなら、原石自体ではなく、一人の人間が何日も何か月もかけて、根気と労力と時間を費やして原石に穴を開け磨き上げたその労苦が、原石よりもはるかに高い価値を宝玉に付与するのではないでしょうか。ひたすら力を尽くしてやり遂げることに、宝石の輝き以上に尊い価値を認め敬意を払う、古代人の価値観に改めて学ばされます。「貫徹」することはそれほどに尊いことなのです。「貫徹」にこのイメージを込めて、再度言います。「かけがえのない高校生活は誰のものでもない、みなさん一人一人のものです。ですから何事も決して人任せにすることなく、取り組むべき事柄については、粘り強く最後まで貫徹しましょう。」

　年度の初めに、今年一年、生徒の皆さんが授業に、行事に、部活動に精励することを期待して、始業式の式辞とします。